

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子池袋本町保育園
施設所在地	豊島区池袋本町1-31-2
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園の周りには公園が多く、子どもたちも自然に興味を示しダンゴムシや蟻など観察したり触ったりして楽しむ姿が見られる。その反面、公共の施設の花などは興味を持っても摘んだりちぎったり自由にしてあげることが出来ない。せっかくの興味関心を広げるためにも花壇を用意し花や野菜を植え更なる興味関心に繋げていく。また、花壇を作ることで園に昆虫を呼び込めるよう工夫し、更なる関わりを深めていく。

2. 活動スケジュール

【テーマの設定理由】

虫が来るための園庭にしたい、華やかな園庭にしたい、自分たちで栽培をしたい、という3つのことについて子どもたちと一緒に話し合った。植えるものについては、子どもたちと一緒に調べながら決めていった。

【花壇の工事と土の整備】

9月26日 花壇の工事完了

9～10月 花壇の作成と土の整備を行った。

【備品・苗を購入する】

子どもたちと「今の季節で育てられる植物はなんだろう」と相談して、花壇で育てる植物を決める。

11月13日 スコップ等備品・苗・種など購入

11月27日 スコップや軍手を使ってキンカン・黄桃・ローズマリーの苗木とスノーボールの苗を植えた。

12月 スイセンの球根・種（ローズマリー、スノーボール）を植えた。植物を植えた後は毎日の水やりを楽しんで行っている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

花壇の工事費用、土、種、球根（クロッカス・ローズマリー・ノースポール）、じょうろ、スコップ、柵、図鑑の購入

設定：花壇を作ることで公園での探索や散歩の道中に見られる植物などを保育園の園庭で楽しめるようにした。また、自分たちで種や苗を植えた事、自分たちで育てている事を実感する事で、より植物に興味をもち、生き物である事の認識と命の大切さに興味の日を向けられるようにしていった。当番制を設けて水やりを行うことで、果物や植物への興味・関心に繋げた。また、図鑑を購入することで育ててない果物や植物への関心や育て方を知れるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【テーマの設定理由】

子どもの好きな植物がより身近になることが、楽しみとなり
大人のわくわく感が子どもたちにも伝わった

【花壇の工事と土の整備】

花壇の完成をしたときの様子を見て、子どもたちはこれからどんな活動ができるのかな、とわくわくする様子が見られた。

花壇では子ども達を使う道具の飾りつけ兼外部からの目隠し等も踏まえ、フェンスを設置。フェンスにはS字フックでじょうろやスコップをひっかけて常時見える位置に飾った。

また、土曜日などみんなでお世話をすることが困難な時にはホースを使って水やりができるようにした。

【備品・苗を購入する】

花壇の設置が終わった後、苗や種の準備が出来ると花壇にそれらの植物を植えた。

図鑑を用いてこれから植える植物の葉や花の形を紹介した。数種類の植物があった為、一人一つ選んで植えた。苗植えを初めて経験する子が多かったため、スコップの扱い方や危険な持ち方などを伝えた。また、手順などを踏まえ、注意事項を事前に伝えた事で実際に園庭に出ると意識しながら行う事ができた。スコップで植物が埋まるくらいの穴を掘り、子ども達自身で苗を植えた後、ジョウロを使って水やりを行った。当番制を設けて定期的に水やりを行っている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

図鑑や画像を用いることで「このお花は白くてかわいいね」「もう食べられるのかな？」と嬉しそうに話していた。球根の下の部分を見ると「ここから育つのかな?」「なにができるんだろう」と不思議に思ったことを図鑑を用いて自ら調べる姿も見られるようになった。また水やりの際には「これは〇〇ちゃんが植えたやつだよね」「まだ桃はできてないね」など保育者や友だちと思ったことを共有しながら楽しんでいる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

1. 探索の際には様々な動植物に興味を持っていた。
2. 花壇を設定することで今までよりも動植物に興味を示すようになった。その植物の育ち方や似ている植物などを自ら調べて、保育者や友達に知らせる姿も見られた。
3. 初めて見る球根の根を見て「ここから大きくなるのかな？」など子どもの着眼点は自由でいて色々な所にあるのだなと感じられた。今後も出来るだけ様々な物に触れ合っ、興味や関心を持ってもらえるような環境を設定していく。
4. 今後植物の成長を一緒に見守り、それらを食べたり製作に取り入れたりして、さらに動植物への興味・関心を持って行けるようにする。